

バイタリテイで勝負

三木重昭

神戸J.C.理事長
神戸マリンベアリング専務

カメラ・米田定蔵

「メイド・イン・イングランドのスーツに上等そうなネクタイで……というんじやなくて、例えば須磨の海岸でGパンはいて、子供と遊んでる——なんて写真の方が僕らしいんだけど」という新J.C.理事長の三木さんご自身の提案でこの写真ができた。庶民派というイメージでいきたいそう。今年には神戸J.C.にとっては多忙の年、というのも全国および海外から一万人を集めての第二十七回全国大会が今年十月十一日から十五日、神戸を舞台に開催される。

「J.C.の活動がコップの中の運動でおわってはダメです。豊かな街づくりを目指してもっと開かれた団体となり、今までJ.C.内部に蓄積していたものを外へ向かって提供する時です。それには突っこんだ交流が必要です。」と持ち前のバイタリテイで前進するのみ。中央大育館での式典、文化ホールでのハイマン・カニン氏を招いての「日本の将来」と題した記念講演など盛り沢山のプログラム。神戸の豊かな街づくりを目指すことはもちろんだが、これからは日本、いや世界のことを考える時代、神戸の開かれた土地柄を生かしてぜひ国際情報センターを造りたいと夢は大きい。今年一年は太郎君（六才）や慎二郎君（四才）と遊ぶ時間も無さそう。昭和十七年生まれ。甲南大法学部卒。須磨区在住。

